



愛川ふれあいの村 今月の風景

2019年12月 自然のたより

山では食糧不足なののでしょうか、最近野生動物をよく見かけるような気がします。冬鳥はだんだんと飛来する数が多くなってきました。日中の暖かさから、虫たちは冬眠をするか迷ってしまいます。しかし村は冬景色。さまざまな綿毛や落葉で村を彩ります。村では最後に紅葉したカマツカが登山客の目を楽しませたことでしょうか。紅葉と冬鳥が楽しめるのもこの時期の魅力です。



カマツカの紅葉



部分日食（12月26日）



カシワバハグマ



ミヤマフユイチゴ



クロスズメバチ



ニホンザル



ピンズイ



アカボシゴマダラの越冬



ヤツデの花



ムササビ ミとムササビメ



産みたて?



モクレンの冬芽



クロアゲハ



ビワの花とメジロ



メタセコイアの褐葉

トピックス ★選ぶとしたら★

ユニークな名前がついた生き物の話をします。昔から嘘をつくとよくないと教えられたものだと思います。しかし、「嘘」を使った言葉があります。うそぶく…これは口笛を吹くという意味です。今回はうそぶく鳥の話です。その名を“ウソ”といい、鳴き声が口笛のように聞こえるだけで、決して嘘をつくのが得意なわけではありません。写真のようにオスは赤いマフラーをしてなんともおしゃれで、野鳥ファンには人気の鳥です。しかし、あまりよく思わない人もいます。なぜなら、ウソは桜の花芽が好物なのです。そのため、桜を育てている人や公園の管理者からは少し厄介者として見られていることもあるそうです。野鳥ファンにとっては山などに入ってまで観察したい鳥で、生息範囲が広がったならうれしいことでしょう。しかし、これは桜を大切にする人にとっては大変な問題となります。ウソで桜が枯れることはないですが、春に見られる大輪の桜が少し寂しくなってしまう可能性があるのです。

一般的にはきれいな桜が見られるほうが良いと思う人の方が多いかもしれません。しかし、ウソには桜が観賞するものといった認識はないようです。みなさんはウソがたくさん飛び環境と、いたるところで桜が咲き乱れる環境、どちらがお好みでしょうか。(石川)



▲ウソのオス



▲ウソのメス

生き物★姿は見えねどもそこにいる★

警戒心が強い野生動物たちは、夜遅くや朝早く活動し、なかなかその姿を見せることはありません。しかし、動物たちがそこにいた証拠として、足跡や糞、爪痕などを残すため、動物と会話をすることはできませんが、予想することはできます。普段足跡がないところに足跡や糞があると、今年は山の餌が少ないのかな?と予想できます。登山などでも爪痕などで動物の縄張りがわかります。

散策の際は動物たちの痕跡も探してみてください。彼らの気持ちになって考えると散策の楽しみが広がります。(清水)



▲村で見つけたシカの糞の痕跡

旬 ★キウイ★

1年を通して食卓に並ぶキウイ。春から秋にかけては有名なニュージーランド産のものが並びますが、12月～4月にかけては国産のものが出回ります。日本でのキウイの旬は実は冬なのです。このキウイ、マタタビの親戚にあたる果物で原産国は中国。中国からニュージーランドに種が持ち込まれて品種改良がされ生産が拡大しました。ビタミンCやE、カリウムが豊富で健康にとってもよい果物です。

神奈川県の子ウイの生産量は全国4位。みかんの転用作物として生産が拡大しました。冬の風邪の予防対策として、国産キウイを召し上がってみてはいかがでしょうか?(鷺田)



▲ハイタカの飛翔

来月の見どころ鳥のいる風景
音もなく静かに落ちていく葉、堰を切ったように葉が落ちてしまおうとんだか寂しい風景に代わってしまつ。
そんな冬景色を明るくするのが鳥たちの行動だ。「ジュリジュリ」「チーチー」「ギーギー」と、エナガやメジロ、コゲラたちの混群が現れると、まるで枯れ木に花が咲いたように明るくなる。エナガは体の大きさは、六〇七羽。尾の長さを入れると十四羽ほどになる。体重は約八羽でとても小さい。小さな鳥たちは、お互いの安全を守るために群れとなって過している。
シメやツグミ、イカルを良く見かけるのもこの時期。しかし、この鳥たちの羽がまとまって落ちてくるのを見かける。猛禽類に襲われているのだ。ふれあいの村での食物連鎖の頂点に立つのは、ハイタカやオオタカと思われる。ハイタカはたまに見かけるが、ドキドキしてカメラの準備がいつも間に合わないくらい動きが早い。鳥のいる風景が見られ、生物の多様性に富むふれあいの村にぜひお出かけください。(吉田)